

## スキルアップ研修「RDA 3R 講習」

担当 高野真理子 (IAAL)

### 内容と目標

インターネットの普及で情報検索が日常化している中で、図書館情報サービスの根幹は、組織化されたメタデータを使いこなす専門的な技術によって裏付けされたものでなければなりません。つまり、メタデータを組織化する技術を身につけることが、的確に情報を利用・提供するスキルに結びつくといえます。実務として資料整理業務を経験する機会は少なくなってきた状況があるとしても、図書館員は資料組織化の最新技術を知っておく必要があります。また、機関リポジトリや資料のデジタル化などでメタデータ(書誌情報)を扱う上でも、書誌情報の概念モデルとして理解しておくことが望まれます。

世界的な書誌情報の最新技術が RDA : Resource Description and Access です。RDA は、『英米目録規則』AACR2 : Anglo American Cataloging Rule の後継として 2010 年に発表され、すでに欧米等ではスタンダードになっています。しかし、日本では NDL (国立国会図書館) が 2013 年 4 月から洋資料について採用された他には普及が進まず、その間に、RDA 自体も刻々と進化しました。

RDA は概念モデルとして FRBR を元にしていましたが、概念モデルを IFLA LRM : IFLA Library Reference Model に更新するための 3R プロジェクトが進められ、2020 年 12 月 15 日に正式版が変わりました。しかし、日本国内で 3R について学ぶ機会はほとんど見当りません。『日本目録規則』2018 年改訂では RDA との相互運用を重視しており、刊行時点ですでに、IFLA LRM への対応のために、「刊行後も 不断の更新を続ける体制が必要である」\*とされていることを考えると、大学図書館にも現行の RDA について知る必要があります。3R (the RDA Toolkit Restructure and Redesign Project) 後に、タームの多言語化・翻訳や、LC/PCC (機関ごとの適用細則) の参照等が充実化している中で、日本のガラパゴス化が顕著になっていることは否めません。

是非いっしょに RDA 3R の書誌世界観を学び、世界で活用されている RDA 3R を使ってみましょう。

\*渡邊隆弘 “新しい『日本目録規則』のすがた” 現代の図書館 55(4) 2017.12

目標は、RDA 3R について知ることとします。また、さらに RDA toolkit の利用によってもたらされる資料組織化業務の変化や、書誌的宇宙の構成について議論します。

## 研修計画・開催方法

本講習では、"Introducing RDA. 2nd ed." \*\*を易しく解説しますので、以前 RDA 講習会等に参加された方も、RDA についてまったく知らないけど、これから学びたいと考えている方も参加可能です。

\*\* Introducing RDA : a guide to the basics after 3R / Chris Oliver. 2nd ed. American Library Association. (ALA edition, Special reports.)

## 内容

「RDA 3R の世界」「世界の RDA 3R」をそれぞれ講義、ディスカッション・実習の 2 回に分けて実施

## 開催

- 第 1 回 RDA 3R の世界\_1 講義・質疑応答
- 第 2 回 RDA 3R の世界\_2 ディスカッション・実習
- 第 3 回 世界の RDA 3R\_1 講義・質疑応答
- 第 4 回 世界の RDA 3R\_2 ディスカッション・実習 まとめ

月 1 回、平日午後 1:30-4:30 (途中休憩約 10 分を挟む)

例えば 6-9 月または 7-10 月の第 1 金曜。もしくは集中講習として、8 月・9 月に各 2 回。

※ コロナや参加者の状況により、第 2 回または第 4 回を対面式で行うことも検討。

## オンライン (Zoom) 開催

- ※ 受講の際にはインターネットに接続できる環境とブラウザが必要となります。
- ※ できれば上記のテキスト購入が望ましいですが、なくても配布資料を用意しますので問題ありません。
- ※ RDA toolkit はトライアルで実習可能です。また、IAAL のライセンスで、デモ操作いたします。